

堺歴史地図

戦国三好一族ゆかりの地を訪ねて

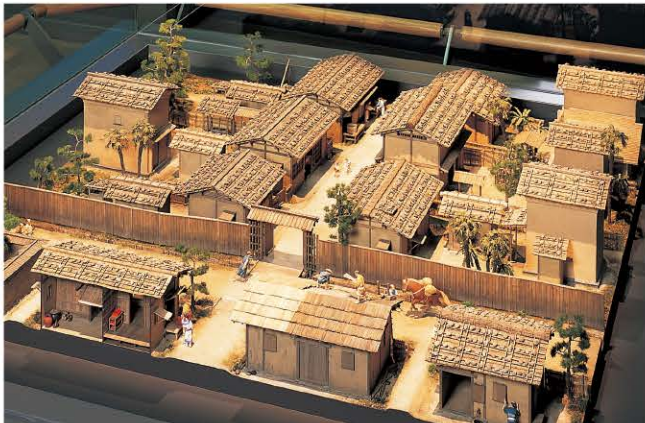
1615年大坂夏の陣以前の堺

堺の町並みの姿は、大坂夏の陣の以前と以後で大きく異なる。そのことが明らかになったのは、50年近く前から現在まで1000地点を越える堺環濠都市遺跡が発掘調査された成果などによってである。

堺の町がもっとも早く市街地化していった住吉御旅所（宿院頓宮）・開口神社付近などの町並みの方角が、夏の陣以前はほぼ東西南北であり、現在のように海岸線に添ったものではなかったことがある。これは、慶長5年関ヶ原の戦い以降徳川方の拠点になっていった堺に対して、大坂夏の陣最中の慶長20年4月28日（1615年5月25日）に豊臣方が町を焼き尽くしたことが原因である。その時の焼失範囲は、発掘による分厚い焼土層が至る所にみられることで分かる（2ページ地図A）。

第2次世界大戦の堺空襲でも、町の北部の多くや南部の南宗寺（なんしゅうじ）・大安寺（だいあんじ）などのいくつかの建物は焼けていないが、この焼土層の範囲はそれ以前の町のほぼ全てに近い範囲だと推定される。全面的に焼土となったために、総てを海岸線に沿った格子状の町並みに造り直すという類例のない都市大改造がおこなわれたのだが、それ以前の地図もないため、都市中心部の史跡の正確な場所が不明になってしまっている。

大阪歴史博物館には、発掘成果のほか上杉本洛中洛外図屏風等を参考にして、織田信長が上洛する永禄11年（1568）ころを想定した2001年製作の堺の町並み復元模型がある。



■ 16世紀の堺の町並みを想定復元した模型（縮尺1/25）

永禄11年（1568）、織田信長に軍用金を課せられた町の動揺と日常の暮らしの様子を再現し、中世都市の実態を紹介する。（大阪歴史博物館蔵）

また、堺市博物館には、発掘成果のほか4ページ掲載の住吉祭礼図屏風の右隻（堺側）等を参考にした1980年製作の下図の模型がある。住吉祭礼図屏風に描かれた景観は、かつては大坂夏の陣以前とされたこともあったが、屏風製作年代が今は1630年代頃とされるようになっており、少なくとも堺側の景観は製作年に近い頃と考えられるため、この模型もその頃のものとすべきであろう。

安土桃山時代の初めから江戸時代初期の70年ほどの期間は、堺の町が都市景観的にもっとも発展した時期と思われるが、そのことがこの2つの模型を比較してよく分かる。

2ページ地図Aの原図は、永井正浩「堺—都市をかこむ堀を中心として—」（『関西近世考古学研究』22号2014年）を基に作った堺市立歴史文化にぎわいプラザの「世界に誇る堺環濠都市遺跡」パネルである（吉田豊編『さかい利晶の杜展示館案内』2015年）。

地図Bは、堺市文化財課土井和幸氏等が制作し、堺市博物館で2006年に開催した特別展「茶道具拝見—出土品から見た堺の茶の湯—」の図録に掲載されたものである。

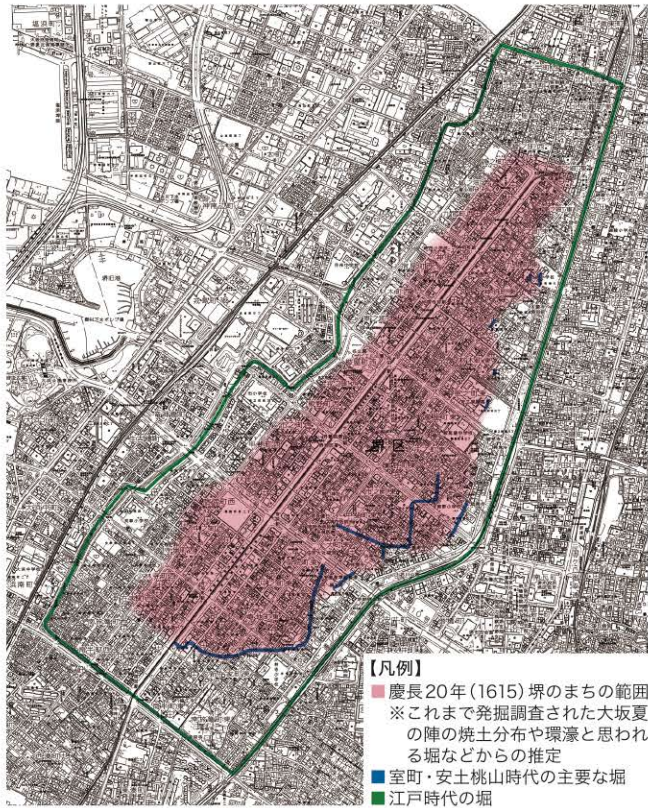
旧域域の中部・南部の堀や道は古代の条里制以来と思われる東西南北方向がほとんどであるが、大道（だいどう・紀州街道）やそれより西側は海岸線に沿った方角に、また北東部は後背湿地に沿った方角になっていることが分かる。



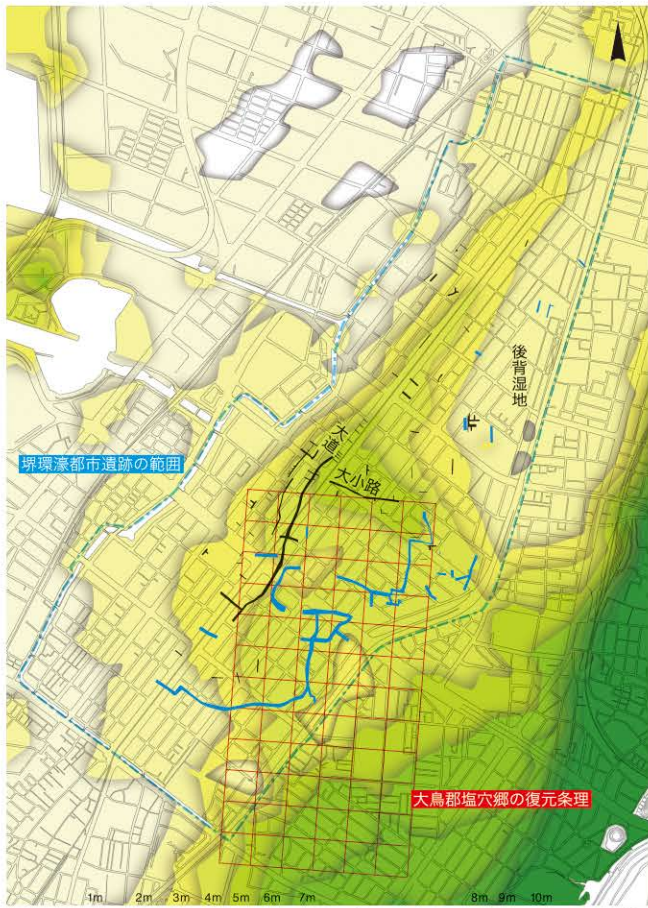
■ 17世紀の堺の町並みを想定復元した模型（縮尺1/20）

江戸時代初期の住吉祭礼図屏風等を基に、繁栄を続ける都市の町並みを紹介する。（堺市博物館蔵）

堺 歴史地図 戦国時代の推定地図と江戸時代



■ 地図A：慶長20年(1615)焼土分布範囲
 (『さかい利晶の杜展示館案内』図録より作成)



■ 地図B：慶長20年(1615)以前の堺の町
 (『茶道具拝見』図録より作成)



■ 地図C：戦国時代、1551～1590年ころの堺の町
 (イメージ図として構成)



※地図C・D作成に際して、
 武藤直・原図「付図Ⅲ、中世」
 (小葉田淳『堺市史統編付図』
 1976年、堺市役所)を参照した。

の地図



■地図D：江戸時代、元禄2年(1689)の堺の町

(「戸別位置番号図配置見取図」(前田書店出版部編『元禄二己巳蔵堺大絵図』1977年、同部発行に収載)に加筆)

三好時代の堺

堺は古代から中世にかけての長い間、住吉大社の強い影響力のもとにあったが、住吉もその一員として戦った南朝が足利氏の擁立した北朝に敗れるとともに、幕府内で勢力があった細川氏の一族から選ばれた和泉守護によって支配されるようになる。また、堺北半部の摂津国側も細川氏が守護であった。

応仁の乱後、戦国時代になると細川氏の出身地である阿波国でその家臣であった三好氏が徐々に台頭し、堺への関与も強まっていく。細川氏による堺支配は100年以上に及びが、三好氏についてはその半分の50年もなく、その期間の大半は細川氏や畠山氏等との勢力争いの渦中にあった。それにも関わらず、堺における三好氏の影響は今に至ってもかなり残っている。特に寺院の存在が大きい。

南宗寺は、三好長慶が父元長のために建立した禅宗大徳寺派の寺院である。武野紹鷗や千利休が参禅したことで知られる堺を代表する寺院である。また妙国寺は、長慶のすぐ下の弟である三好実休が、若くして戦死する前に寺地を寄進して創建されたものという。織田信長の安土城から戻ってきた大蘇鉄の伝説や、幕末の堺事件での土佐藩士11人の切腹の舞台になったことなどで知られる。

長慶・実休の父三好元長の時代、大永7年(1527)頃から享禄5年(1532)までの5年間ほど、堺公方とも称された足利義維(よしつな)のいわゆる堺幕府が引接寺(いんじょうじ)にあった。元長はまた、顕本寺(けんぼんじ)を拠点とした。

元長の祖父の時代から堺の北西部の海岸地帯に、海船館または海船政所(かいせんまんどころ)と称された三好氏の拠点があったという。同時代史料にはみえない伝承であるが、三好氏と堺との密接な結びつきを想起させてくれる。

三好時代の堺においては、鉄砲が伝来し堺にも伝えられ大量生産されたこと、イエズス会宣教師が堺に来て堺を自由都市・共和国、日本のベネチアとヨーロッパにまで紹介したことなど、日本史上でも特筆すべきできごとがあった。堺全体を囲む巨大な堀が掘られたのもこの頃と思われる。

2から3ページの地図Cは、1992年に福岡市博物館でおこなわれた堺と博多展に際して作った戦国時代の堺のまちの推定平面図である。福岡側の展示に合わせて急遽制作したものであり、部分的には根拠の薄い推定図である。しかし大坂夏の陣以前の道路や堀などの全容は今に至っても不明であるため、あえて全体図を示すことにした仮のものである。それでも最近になっていくつか明らかになったこともあり、それらを少し加えた図とした。

3ページの地図Dであるが、ベース図は『元禄二己巳歳堺大絵図、個別位置番号図』(前田書店出版部、1977年)の配置見取図でそれを少し加工し、そこに三好関係の寺社の範囲などを加筆している。



■「住吉祭礼図屏風」に描かれた堺の町並み(堺市博物館蔵)

三好氏と堺年表

1391年	12月、明徳の乱で堺の山名軍、大内義弘に敗れる。これ以前、山名氏清は和泉国守護所を府中から堺に移したという。	1556年(弘治2)	6月15日、長慶が堺の顕本寺で、父元長の二十五回忌法要を行う。7月、長慶は元長追善のため、堺で南宗寺の建設を始める。
1408年(応永15)	8月、細川氏(頼長・基之)、それぞれ和泉国(上・下)守護に。	1559年(永禄2)	10月18日、イエズス会宣教師ヴィレラ、堺に到着。
1469年	遣明船が、南海路(土佐)を経由して堺に初めて入港(3隻のうち幕府船と細川船で、大内船を除く)。この後、堺を発着港とする。	1560年(永禄3)	10月24日、長慶が飯盛城を攻略。畠山高政らは堺に敗走。
1484年(文明16)	会合衆(かいごうしゅう)(十会合)の初見。『蔗軒日録』(堺・海会寺住職の日記)による。	1561年(永禄4)	8月17日付、堺発ヴィレラより、「この町はベネチアの如く執政官に依りて治めらる」と報告される。
1507年(永正4)	8月2日、三好之長(ゆきなが、長慶の曾祖父)、細川澄元を擁して入京。一時、幕政の実権を握るが、翌年、足利義植(よしたね)、細川高国と連合した大内義興(よしおき)の上京で追放される。	1562年(永禄5)	8月、堺発、ヴィレラより、堺の「町は甚だ堅固にして、西方は海を以て、又他の側は深き堀を以て囲まれ、常に水充滿せり」(環濠の初見)
1527年(大永7)	3月22日、三好元長(長慶の父)、足利義維(よしつな)・細川晴元を奉じて、阿波より堺に到る。32年の元長敗死まで、堺公方府(いわゆる堺幕府)が存在した。	1564年(永禄7)	7月4日、長慶が飯盛城で病死する。
1532年	6月20日、一向一揆に攻められ、三好元長、堺・顕本寺で自害。	1566年(永禄9)	5月30日、三好義継・三好三人衆ら、松永久秀を堺に攻撃。会合衆が仲介し、久秀は大和に通れる。
(享禄5/天文1)	8月2日、一向一揆、堺で細川晴元らに敗れる。	1567年(永禄10)	2月26日、三好義継は三人衆と不和になり、堺にいた松永久秀を頼って堺北庄材木町に入る。
1533年(天文2)	6月20日、三好長慶(満11才)、本願寺と晴元との和睦を斡旋。	1568年(永禄11)	3月、日珧による三好実休の七回忌に、その妻子らが阿波から堺に。日珧の父・兄等の油屋一族が、妙国寺を建立。
1539年(天文8)	8月12日、長慶が越水城(西宮市)に入城する。	9月26日、織田信長が足利義昭を擁して入京する。	
1546年(天文15)	8月20日、長慶が堺会合衆の斡旋で細川氏綱と和睦し撤兵。	1569年(永禄12)	1月9日、信長が入京し、堺が三好三人衆を支援したことを責める。堺、2万貫を納める。
1549年(天文18)	11月5日、来日したサビエルは、鹿児島からマラッカの司令官宛に「堺は日本の最も富める港で国内の金銀が最も多く集まる所」と報告。	1571年(元龜2)	7月4日、南宗寺で三好長慶の七回忌が行われる。
		1573年(天正1)	11月16日、織田信長が「若江城の三好義継を滅ぼす。

堺歴史地図 戦国三好一族ゆかりの地を訪ねて

令和4年(2022)10月29日発行/企画・編集:吉田豊(摂泉堺郷土史研究所)/発行:堺市博物館
デザイン・図面加工:山本ソノンビ(山本書院グラフィックス)